

# 大銀杏

おいちよう

令和3年10月13日  
秋号 11号  
発行：日蓮宗圓藏寺

〒330-0054

さいたま市浦和区東岸町1-29

電話 048-882-2835

FAX 048-883-9848

Facebook・Instagram

浦和 円藏寺 検索



公式 HP



YouTube

## 日蓮大聖人のお言葉

いつもの御事に候へば  
をどろかれず、めづらしか  
らぬやうにうちをばへて  
候ふは、凡夫の心なり。

## 上野殿御返事

日蓮大聖人のお言葉に触れ、日々の生活の指針を求めたいと思います。  
このお言葉は、建治3年(1277年)大聖人56歳の時(または、建治元年・54歳)、信徒へ送られたお手紙の一説です。大聖人の山中での生活を思いやっの供養へ感謝を記し、その功德を讃えています。

世界の人口の一〇人に一人にあたる割合となります。私が人生に於いて空腹が本当に辛かったのは二九歳の時に行った大荒行堂での修行の百日間です。一日二回の粥と味噌汁だけの日々は十キロ以上体重が落ちました。大変辛い経験であり、修行と同じに考えてはいけないうちもかもしれません、世界ではそうした日々、もしくはそれ以上に食べられない日々が永遠のごとく続く方々が実際にいらっしゃいます。さらに、国内においてもコロナ禍によって職を失うなど、苦しんでいる方々も多くいらっしゃるかと存じます。直接助けられる事はなかなか難しい事かもしれませんが、そうした中であって今当り前に生活をしている事を少なくとも最低限考える必要があるのかと思うのです。

このお手紙は、大聖人がお供物をいただいた際に記したお礼状冒頭に見られる部分です。「いつもいただいでばかりで馴れてしまい、感動もなく感じるのは凡夫の浅はかな心です。誠に申し訳ないと反省します。」と記されています。その後、相手の状況を鑑みて感謝とその功德を記しているのですが、大聖人であってもやはり、日々の「当り前」を振り返り反省をされているのだと改めて気付かされます。

紙面にも記ささせていただきましたが、この度、檀家様の尊いご寄進によって、本堂の畳を新調し、境内に手すりを設置する事ができました。今後お参りいただく多くの方に喜んでいただける事であり本当に有り難いことです。お寺は檀信徒様によって支えられ、私自身も出逢う多くの方々を支えられて生きています。少し考えると当り前の事であるのに、その当り前を忘れていきます。今ある当り前はなぜあるのかしっかりと考えて日々精進してまいりたいと思います。(良海)

私は今、一日三食いただき、時に間食もとり、当り前に日々を生きています。しかし、これがどれ程恵まれていることでしょうか。国連機関の発表によると、コロナ感染拡大の影響もあり、去年一年間で飢えに苦しむ人々は前年よりも一億人以上増え、七億六千万人余りにも及ぶそうです。これは、

# いろはに円藏寺③ 年間行事〜大法要〜

当山では、年間を通じて年四回大法要を執り行い、ご先祖様への供養や日蓮大聖人への報恩法要を執り行っております。今回は、それぞれの行事の時期とどういった意味合いのある法要なのかを改めてお伝えしていきます。

また、近年では、大法要に加え、節分会を復活させ、檀信徒様はもちろんのこと、ご近所の皆様やご縁ある方々が供養できるお寺・祈願の出来るお寺となりますよう努めております。

※全ての法要は檀信徒様以外でも志のある方どなたでもお参りいただけます。お参りの際には、ご本尊様にお布施（お気持ち）をお納めしましょう。  
また、それぞれの法要（または前後の時期）で、「お墓参り・卒塔婆建立・お札祈願等」特に何が重要かを○の中に記しました。是非参考にしていただければと思います。

## お札

平成三十年から復活！

### 二月初旬 節分会星祭り

節分とは季節の分かれる時の意味で、立春・立夏・立秋・立冬に移る時をさします。中でも立春は、一年のはじめであるため、節分会を行い、邪気を払い、新しい一年の家内安全・無病息災を祈願して豆まきを行います。

円藏寺でもかつては毎年行っていたようですが、残念ながら長く執り行われませんでした。そこで、平成三十年より新たに復活。本堂で法要を行った後は、本堂正面より豆まきをし、近所の方で大変賑わっております。ちなみに、日蓮宗のお寺では鬼子母神様を祀るので、「鬼は外」とは言わない寺院も多くあります。



## 塔婆墓参

### 三月春分の日 春季彼岸会



春分の日を中日として前後三日、計七日間をお彼岸と言います。「彼岸」とは、迷いの娑婆世界（此岸）から悟りの世界（彼岸）へと到る事を意味しています。普段は仕事や育児・家事に追われ、仏道修行や善根功德を十分に積むことが出来ない方にとっても、仏道修行に励むに相応しい期間とされました。悪を止め、善事を実行する大切な一週間です。さらに、日本に古来からある祖先崇拜が結びつき、先祖供養やお墓参りを意味するようになります。

## 塔婆墓参

### 八月二十三日 孟蘭盆施餓鬼会

「施餓鬼」では、餓鬼道にあつて苦しむ全てのものに飲食を施し供養します。お盆には、ご先祖さまの精霊をまつりますが、同時に無縁仏や不慮の事故などによって横死した全ての精霊のために施餓鬼棚をつくり施食供養を致します。私達の命が多くの生命と繋がっている事を自覚し、私達にもある欲や貪りの心を反省する法要でもあるのです。「施餓鬼」お盆」と考えがちですが、毎日でもするべき大事な法要であるのです。孟蘭盆（お盆）にも餓鬼が登場するので、多くの寺院ではお盆の時期に法要を執り行います。

## 塔婆墓参

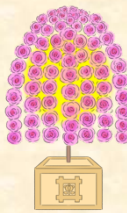
### 九月秋分の日 秋季彼岸会

秋分の日を中心として、前後三日、七日間に行われる仏道修行と先祖供養の期間。意は、春分の日と同じ。春は牡丹の花が咲く頃なので「ぼたもち」、秋は萩の花が咲く頃なので、「おはぎ」として仏様にお供えます。基本的には同じ物ではありますが、大きさの違い、あんなこの違い（春はこしあん、秋はつぶあん）、五穀豊穰を意味する、赤色は邪気を払う色、等様々な説が言われております。ちなみに、関東では、「あずき・きなこ・黒ごま」のイメージが強いおはぎですが、関西では「青のり」が一般的だそうですね。

## 日蓮聖人の報恩

### 十一月三日 宗祖御会式

日蓮大聖人のご命日（十月十三日）を中心に日蓮宗寺院では、宗祖に報恩の誠を尽くすお会式を営みます。大聖人がご入滅された際、庭の桜が季節外れの花を咲かせたという故事にちなみ、桜の花を模した万灯を飾ります。





# 奉納感謝

◎本堂畳・新調費用として

金 二百萬円也

【奉納者】 匿名

当山の本堂は昔ながらの木造建築。様々な時代をくぐり抜けてきたからこそその良さはあるものの、特に畳に関しては経年劣化が激しい状態でした。

雨漏りの被害による腐敗部分もみられ、場所によってはフワフワしており、けがの恐れさえある状況でした。そうした中、お檀家様のご寄進をもとにこの度本堂の全ての畳を新調することが出来ました。心より感謝申し上げます、ここに報告させていただきます。

い草の良い香りが堂内に満ち、本堂全体が明るくなりました。より安心感のある中お参りいただけるかと思えます。是非お参りの際は本堂の中まであがっていただき、お手を合わせていただければ幸いです。

※工事一式の費用として約三百万円。不足分約百万円につきましては、当山令和三年度会計より支出致しました事をご報告申し上げます。

※円藏寺は全体的に建立より年月の経った建物が多く、修繕すべき箇所が多くございます。しかしながら現状、全て修繕すると莫大な資金が想定される為、実現までは至っておりません。お寺としても皆様に安心してお参りいただけますよう維持管理に努めてまいります。檀信徒の皆様、ご縁ある皆様には今後とも何卒ご理解、ご協力をいただけますようお願い申し上げます。



仏具に埃がかからないよう、工務店の方々が丁寧に保護をしてくださいました。

本堂内陣（中央部）は、これまで板張りの上に赤い毛氈が敷いてありました。畳との境に数ミリの段差があり、また汚れも目立っていたため、これを機に全て畳に致しました。安全性も高まり、本堂全体が明るい印象になりました。



◎境内手すり一式（本堂前一对・境内入口一对）

金 三十八萬円也 総代 小倉利夫様

金 十八萬円也 総代 野口 武様

金 十八萬円也 総代 加藤華子様

本堂正面・境内入口にある階段の両サイドに手摺りを設置致しました。これまで手すりが無かった為、不安を覚える方も多かったかと思えます。

総代会にてその旨をご相談したところ、「すぐにでも設置しましょう。」と総代三名様が快くご奉納くださり完成に至りました。当山には日頃よりご年配の方も多くお参り下さり、今後より安心してお参りいただけるようになりました。心より感謝申し上げます。



※令和三年正月より、ご朱印授与の際にお納めいただいたお布施をもとに境内各所に手すりを設置するご案内をださせていただきました。既に沢山の方よりご賛同いただきご奉納賜っており、心より感謝申し上げます。

これまでの御朱印によるご奉納につきましては、同時にご案内しておりました「境内のベンチ修繕費・玄関内の手すり付きスノコの設置費」へと当てさせていただき改めてご報告致します。何卒ご理解の程よろしくお願い致します。

# 【円蔵寺ティービー】元気に配信中!!!



**チャンネル登録**

お願いします!

こんな動画があります!

- 「日蓮大聖人の御生涯(略)」
- 「剃髪～なぜ僧侶は髪を切るのか」
- 「お坊さんのDIY シリーズ」
- 「お経練習・太鼓の叩き方」
- 「もう迷わない！お焼香の作法」
- 「僧侶になるための4ステップ」
- 「副住職、ヨガを習う」 などなど

開運落語会／おうちで出来る寺ヨガ

コロナ禍を吹き飛ばしたいと始めたお寺のYouTubeチャンネル。これまで、お寺で人気の寺子屋企画より「立川談慶・開運落語会」「寺ヨガ」を番外編としてお届けしてきました。そして、本年春からは副住職が勇気を振り絞って登場、お寺の魅力・お坊さんの日常などを必死でお届けしています。素人の作りですが、おうち時間に是非お楽しみいただき、少しでもお寺に興味を持っていただけたら嬉しい限りです。



二〇二一年の十一月二十一日で、師匠談志がこの世を去ってから丸十年。そして二〇二一年が入門丸三十年である私はいとうと、入門してから九年半が前座だったので、ほぼ丸十年が下積みで、そこから師匠とは約十年、トータルで二十年しかお付き合いできなかった形になります。

立川流とは、ひとことと言うならば「天才工房」なのかもしれません。志の輔師匠、談春兄さん、志らく兄さんと、今を時めく兄弟子各位はその天才性を師匠が入門直後から評価することにもなり、早々にスターダムに駆けあがった格好であります。「志の輔師匠のポピュラリティ」、「談春兄さんの風格」、「志らく兄さんの狂気」はすべて師匠譲りでそれらが大衆の好みと掛け合わされて、それぞれの地位を獲得するに至りました。が、私はいとうと、前座で九年半もつまづく鈍才です。上記のお三方とは一線を画すところですが、それでもそんな私に談志が残してくれた最高の言葉は「俺に殉じてみる」でした。これは意識すると「お前が想像以上に不器用なのはよくわかった。だとし



たら、その不器用さを買ってみろ。俺の昇進基準を、コツコツ積み上げてみる。鈍重さを極める。俺は我慢して付き合ってる」ということなのでしょう。「一を聞いて十を知る」のではなく「十聞いてやつと一を知る」というタイプの私も師匠は「信じて」くれたのです。逆に言えば、そんな鈍才だからこそ談志からかけられた言葉をいまだに吟味し続けることで二十一冊の本が出せたのではと「信じて」います。何が幸いするかわかりません。初小説「花は咲けども嘸せども」には談春兄さんから「不器用を拗らせたような男が芸人になった。うまく生き抜けるわけがない。でも、だからこそ、愛しい」と、小説の主人公錦之助と私を同時に射貫く言葉を賜りました。スイスイ行かないタイプのも私でも師匠は決して見捨てなかつたからこそすべてがつながるのです。またお墓参りに行きます。あ、コロナが明けたら加藤副住職を先頭にみんなで師匠のお墓参りに行きませんか？

落語立川流真打 立川談慶師匠